

プログラム内容に見る東京都奥多摩町にある森林環境教育施設の役割

杉浦克明¹・新島 心^{1,2}

1 日本大学生物資源科学部

2 現所属 (株) 日比谷アメニス

要旨: 東京都は都市部に住む人々が森林に触れあえる奥多摩町を有している。そこには、「都立奥多摩湖畔公園山のふるさと村」と「東京都奥多摩都民の森」といった森林環境教育施設がある。そこで、本研究の目的は、山のふるさと村と奥多摩都民の森で行われている森林環境教育の教育内容を明らかにすることにより、これらの施設の役割について検討することである。その結果、山のふるさと村では子ども向けのイベントが充実していた一方で、都民の森では中学生以上向けの林業体験などのプログラムが多かった。山のふるさと村は学童期を対象としたプログラム施設と考えられ、原体験の場として重要な役割を担っていた。都民の森では本格的な森林・林業体験の場であり、青年期以降のプログラム中心の施設と考えられた。

キーワード: プログラム内容, 利用者数, 施設, 森林環境教育, 奥多摩町

The role of forest environmental education facilities based on the program content in Okutama-machi in Tokyo, Japan

Katsuaki SUGIURA¹ and Shin NIJIMA^{1, 2}

College of Bioresource Sciences, Nihon University, 1866 Kameino, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan 1

HIBIYA AMENIS Corporation, 4-7-27 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-0073, Japan 2

Abstract: Abstract: Urban areas comprise a decreasing number of opportunities for children to experience nature in their daily lives. The Tokyo Metropolis encompasses Okutama-machi, which enables inhabitants of urban areas to access forests. This town includes two forest environmental education facilities: “Yama-no-furusato-mura” and “Okutama-tomin-no-mori.” This study aimed to investigate the roles of these facilities by clarifying the contents of their forest environmental education programs. As a result, we found that the Yama-no-furusato-mura facility offered many children’s programs. Conversely, Okutama-tomin-no-mori had numerous programs aimed at junior high school students and older, exploring topics such as forestry experience. Therefore, the Yama-no-furusato-mura facility was considered to catered toward elementary school children, and played an important role as a first-hand experience opportunity. The Okutama-tomin-no-mori facility was dedicated to full-scale forest and forestry experiences, and was regarded as providing programs for adolescents and beyond. These results indicate that the two facilities have distinct roles and are segregated.

Keywords: program contents, number of users, facility, forest environmental education, Okutama-machi

1 はじめに

子どもの遊びの時間を分析した報告によると、小学生時代が最も屋外遊びやスポーツの時間が長いとされている(1)。つまり、森林等での自然体験の機会が多いのも小学生時代といえる。しかし、森林・林業についての学習機会は農林水産業の中でも少なく(4)、市民の関心も高くない。また、児童が認識している樹種数は11種程度であるが、回答樹種の多くは果樹であることから(2)、森林・林業が身近でないことがうかがえる。その様な中、

東京都にも森林率の高い地域がある。農林水産省の市町村別統計データによると、東京都奥多摩町の森林面積は約21,200 haであり、森林率は約94%である。都心から少し移動すれば森林・林業に触れられる場所であり、都内最大の森林面積と森林率を有しているため、本研究の対象地とした。

その奥多摩町には、東京都が所有する「都立奥多摩湖畔公園山のふるさと村」(以下、山のふるさと村)と「東京都奥多摩都民の森(通称名:体験の森)」(以下、奥多

摩都民の森)の2つ森林環境教育施設がある。都市部で森林・林業を体験できる貴重な場所となっている。全国的に青年期以降(人の発達段階でいう中学生や高校生)の森林環境教育プログラムの実施が少ないとの指摘もある(3)。将来にわたって森林・林業に興味・関心のある人を育成していくために、公的な施設は重要な拠点となる。そのため、同じ指定管理者が運営するこれらの公的な施設の利用者とプログラム内容を解明することは、森林環境教育の推進を図る上で必要なことである。

そこで、本研究の目的は、山のふるさと村と奥多摩都民の森で行われている森林環境教育の教育内容を明らかにすることにより、これらの施設の役割について検討することである。なお、本研究では森林、林業、木材等に関するものであれば森林環境教育プログラムの一つとして解釈するものとする。

II 材料と方法

1. 研究対象 研究対象は、東京都の奥多摩町にある山のふるさと村と奥多摩都民の森である。これらの施設は東京都が所有し、管理は指定管理者になっている奥多摩町が行っている。両施設に関する事業報告書(5, 6, 7, 8, 9, 10)やホームページ(11, 12)を参考に、施設の概要について以下にまとめる。

山のふるさと村の開設は1990年10月で、設置目的は、「都民の健全なレクリエーション需要に対処するため、自然利用の拠点として奥多摩湖畔に大規模な集団施設地区を整備し、東京都内に残存する貴重な自然を広く都民に親しんでもらうこと」とある。現在の面積は30.2haあり、施設としては管理事務所、ビジターセンター、レストラン、クラフトセンター、散策園路、野営場、バーベキュー広場などがある。なお、施設の指定管理者は奥多摩町であるが、施設内にあるビジターセンターの解説業務は、(株)自然教育センターが指定管理者となっている。

奥多摩都民の森の開設は1993年7月で、設置目的は「都民が自然に親しみ、林業の体験及び野外レクリエーションを通じて森林に対する正しい理解を深め、森林の健全な育成及び活用並びに健康の増進を図り、併せて林業及び地域の振興に資する」となっている。この施設は、「栃寄集落ゾーン」と「体験の森ゾーン」の2つに分かれている。「栃寄集落ゾーン」には宿泊室、研究室、食堂、炭焼き小屋、あずまや、自炊施設があり、「体験の森ゾーン」には歩道、あずまや、休憩広場、モノレールなどがある。なお、「体験の森ゾーン」の面積は82.4haである。

2. 調査項目 分析を行った資料は、両施設の事業報告書(5, 6, 7, 8, 9, 10)とホームページ(11,

12)である。調査対象とした報告書の対象期間は2016年、2017年、2018年の3ヶ年分とし、分析項目は事業報告書にある利用者数とプログラム実績とした。プログラム実績については、対象期間の3年間で回数が多いもので、かつ代表的なものを抽出した。

III 結果

1. 山のふるさと村と奥多摩都民の森の利用者数の推移 山のふるさと村の3年間の利用者数の平均値は66,630人であるのに対し、奥多摩都民の森では6,139人であった(図-1)。施設によって集計の仕方が異なっている可能性もあるが、山のふるさと村の利用者数の方が10倍近く多かった。

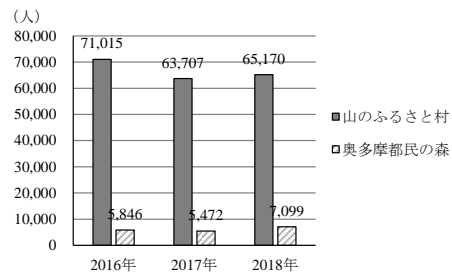


図-1. 山のふるさと村と奥多摩都民の森の利用者数

Fig.1 Number of users of the Yama-no-furusato-mura and the Okutama-tomin-no-mori.

山のふるさと村では、施設内にあるクラフトセンターとビジターセンターの利用者について、それぞれ個別の集計が取られている。その利用者数について見ると、クラフトセンターの平均入館者数は約28,700人であり、山のふるさと村利用者の4割以上の人はクラフトセンターに立ち寄っていることになる(図-2)。クラフトセンターでは、木工教室、石細工教室、陶芸教室、自然食教室が行われているが、最も多くの利用者がいたのは自然食教室で、年間約4,280人であった。一方、木工教室は最

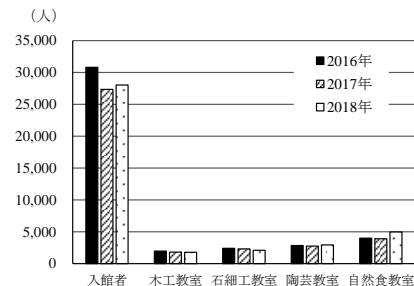


図-2. クラフトセンターの利用者数

Fig.2 Number of users of the craft center.

も少なく、年間約 1,850 人であった(図 - 2)。ビジターセンターの利用者数は年間約 31,200 人で、来訪者の約半数の人はビジターセンターに立ち寄っていた(図 - 3)。

奥多摩都民の森では、年代別の利用者数の集計が取られており、その結果を図 - 4 に示す。図 - 4 を見ると、40 代以上の利用者が多いことがわかる。その一方で、20 代以下の利用者は少なく、中でも中学生と高校生の利用者はほとんどいなかった。

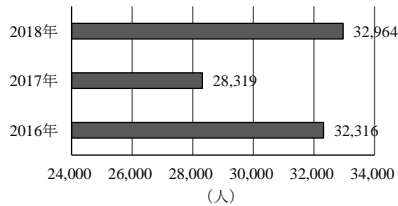


図 - 3. ビジターセンターの利用者数
Fig.3 Number of users of the visitor center.

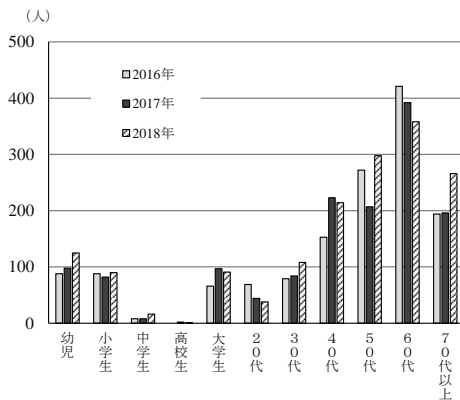


図 - 4. 奥多摩都民の森の年代別利用者数
Fig.4 Number of users of the Okutama-tomin-no-mori by age.

2. 山のふるさと村で実施されたプログラム内容 3 年間で山のふるさと村で最も多く行われていたプログラムは、「ヤマメとマスのつかみどり」で(表 - 1)、夏の期間の週末や祝祭日を利用して行われていた。次に多かったのは、「ピアノコンサート」や「星空観察」などの年代を問わず参加できるものになっていた。森林環境教育に関連するものとしては、「自然散策」、「ベンチチェストづくり」、「コーヒーカップとソーサー作り」、「セラピーロードで自然散策」等が挙げられた。他を見ると、「干し柿づくり体験」、「虫入りコパール磨き」、「ヤマメ燻製作り」、「陶芸とそば打ち」等のものづくりに関するプログラムが多く見られた。また、小学校児童が参加できる内容のものも多く、毎年行われているプログラムが多い。

山のふるさと村では、ビジターセンター独自のプログ

ラムと自然体験教室も行われている。こちらの内容を見ると、展示解説、野外解説、季節に応じた自然に関するミニトーク、自然体験教室(キャンプ)等の 12 のプログラムが行われており、例年同じプログラムで開催されていた。ビジターセンターの内容も小学校児童を中心とした内容のものが多かった。

表 - 1. 山のふるさと村で実施されたプログラム
Table.1 Program conducted at the Yama-no-furusato-mura.

プログラム名	回数
・ヤマメとマスのつかみどり	43
・ピアノコンサート	8
・星空観察	6
・山ふる干し柿づくり体験	4
・檜原・奥多摩自然散策	3
・ベンチチェストづくり	3
・虫入りコパール磨き	3
・コーヒーカップとソーサー作り	3
・清流生まれのヤマメ燻製作り	3
・奥多摩産じゃがいも「治助芋」種まき	3
・じゃがいも収穫体験	3
・バードウォッチング	3
・陶芸とそば打ち	3
・セラピーロードで自然散策	3

3. 奥多摩都民の森で実施されたプログラム内容 奥多摩都民の森のプログラムは、「森を育てる(森づくり体験)」、「森を歩く(野外体験)」、「森に触れる(山の生活体験)」の大きく 3 つに分類されている。まず、「森を育てる(森づくり体験)」に関して実施されたプログラムを見ると(表 - 2)、森林ボランティアクラブ柚's と森林ボランティア養成コースが多いことがわかる。森林ボランティアクラブ柚's は、森林ボランティア養成コースの受講者が参加できる会員制のクラブで、森林整備や登山道の補修等の本格的な作業が行われている。なお、このク

表 - 2. 奥多摩都民の森で実施されたプログラム
Table.2 Program conducted at the Okutama-tomin-no-mori.

プログラム名	回数
森を育てる(森づくり体験)	
・森林ボランティアクラブ柚's	20
・森林ボランティア養成コース	13
・奥多摩〇ごとネイチャー体験・フォレストシリーズ	6
・夏休み子ども森林体験*	1
・親子で夏休み自由研究*	1
・親子木こり体験*	1
森を歩く(野外体験)	
・登山(日帰り登山, 奥多摩登山, 季節の登山等)	39
・登山クラブカタクリの会	14
・集まれ山ガール	16
・山歩き・トレッキング	16
・親子ハイキング*	1
森に触れる(山村の生活体験)	
・山女魚道場	10
・奥多摩〇ごとネイチャー体験・アウトドアシリーズ	6
・みんなで野良仕事	5
・親子で溪流釣り*	5

*: プログラム名に「子ども」、「親子」が入っているもの

ラブの活動は、年間を通じて定期的に行われていた。「森を歩く（野外体験）」では、登山に関連するプログラムが多かった。登山クラブカタクリの会は、登山プログラムに参加した人を対象とした会員制のクラブになっており、年間を通じて開催されていた。「森に触れる（山の生活体験）」では、本格的なヤマメ釣りの指導が行われており、青年期以降向けの内容となっている。以上のように、奥多摩都民の森のプログラムは青年期以降向けの内容が多く見られた。一方、プログラム名に「子ども」や「親子」のついたものもあり（表-2の*）、自由研究、木こり体験、ハイキング、溪流釣り等も行われていた。

IV 考察

山のふるさと村では毎年開催されているイベントが多く、さらに親子向けが多かった。また、クラフト系のイベントが多数用意されているのが特徴的であった。親子向けが多かったため、利用者数も多くなっていると考えられた。一方で、都民の森では年間を通じて定期的に行われているイベントが多く、また青年期以降向けの内容となっているものが多かった。その様なことから、幼児や児童の利用者が少なく比較的年配の利用者が多くなっていた可能性がある。また、親子向けのプログラムも少なかったことが、山のふるさと村に比べて利用者数が少なかった要因だろう。

イベント内容や参加者を見ると、山のふるさと村では学童期（人の発達段階では小学生）のイベントが充実しており、原体験の場として重要な役割を担っていると考えられる。一方、奥多摩都民の森はイベント内容が青年期（中学生・高校生）以上向けとなっており、本格的な林業体験の場として重要な役割を担っているといえる。全国的にも青年期以降の森林環境教育プログラムの実施が少ないとの指摘もあり（3）、重要な施設と位置付けられる。しかし、次世代の人材育成という点で青年期の利用者が少ないのは、森林環境教育施設の課題といえる。施設開設の目的を見ると、山のふるさと村では「自然を広く親しんでもらう」こと重視しており、奥多摩都民の森では「森林に対する理解を深め、森林の健全な育成を図り、林業及び地域の振興に資する」ことに主眼が置かれている。一部のプログラム内容では共通項は見られたものの、施設が開設された目的に沿ったプログラムが実施されているといえよう。

以上のことから、本研究は、山のふるさと村と奥多摩都民の森の両施設の役割に違いがあることを明らかにした。施設の目的はそれぞれ異なるが、その目的に対する対象年齢は決められていないはずである。一人でも多く

の人に森林・林業への興味や関心を持ってもらうためには、両施設ともにすべての年代に対応し、参加者のレベルに応じたプログラムの検討も必要だろう。

V おわりに

山のふるさと村と奥多摩都民の森では、明確な開設目的の違いがあるが、どれだけの利用者がその違いを理解しているのか不明である。東京都にこのような施設があることは森林環境教育を推進していく上で重要な拠点といえ、利用者にとってわかりやすい施設の在り方を考えていく必要があるだろう。

引用文献

- (1) 橋本尚美 (2009) 誰がどのように遊んでいるのかー遊びとメディアの時間に着目してー. (第1回 放課後の生活時間調査 2008年, ベネッセ教育研究所編) 87-96 https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/houkago/2009/hon/pdf/data_09.pdf (閲覧日 2019年11月5日)
- (2) 杉浦克明・原崎典子・吉岡拓如・井上公基 (2014) 児童が思いつく樹種名とその理由 - 神奈川県藤沢市の小学校の事例 - . 日林誌 96 : 43-49
- (3) 杉浦克明 (2015) 発達段階に応じた森林環境教育の実施の必要性. 日林誌 97 : 107-114
- (4) 杉浦克明・吉田早織・早川尚吾 (2018) 小学校教育課程における教科書に掲載されている樹種名. 日林誌 100 : 47-54
- (5) 東京都奥多摩町 (2016) 山のふるさと村係. (平成28年度事務報告書, 東京都奥多摩町) 312-321
- (6) 東京都奥多摩町 (2016) 都民の森係. (平成28年度事務報告書, 東京都奥多摩町) 322-326
- (7) 東京都奥多摩町 (2017) 山のふるさと村係. (平成29年度事務報告書, 東京都奥多摩町) 320-328
- (8) 東京都奥多摩町 (2017) 都民の森係. (平成29年度事務報告書, 東京都奥多摩町) 329-333
- (9) 東京都奥多摩町 (2018) 山のふるさと村係. (平成30年度事務報告書, 東京都奥多摩町) 313-321
- (10) 東京都奥多摩町 (2018) 都民の森係. (平成30年度事務報告書, 東京都奥多摩町) 322-326
- (11) 東京都奥多摩都民の森 (2020) 林試の森公園マネジメントプラン - 林試の森公園の管理運営、整備等の取組方針 - . <https://www.tomin-no-mori.jp/> (閲覧日 2020年11月6日)
- (12) 東京都立奥多摩湖畔公園山のふるさと村 (2020) 都立林試の森公園. <https://www.yamafuru.com/> (閲覧日 2020年11月6日)